

■ きたえ

1 いぬ
 2 みかん

3 だいごん
 4 はっば

5 かきごおり

6 かぼちや

7 じてんしや

二に
 8 びよういん

1 はながさく

2 あめがふる

とりくんでみよう!

に ひらがなを かいて ことばを つくりましょう。



1 おいさん



2 せんせ



きたえ

い
 せん

■こたえ

一 1 オ→イ↓ウ↓エ↓ア (すべてできて正かい)

2 わた毛

二 1 ア

2 ① はじめに(まず)

② よこに

③ さいごに(つぎに)

■考え方

一 1 たんぽぽが、そだつ ようすに ついて、どのような じゅんじよで
せつめいしているかに 気をつけて、読む ことが 大切です。

2 たんぽぽが、そだつ ようすについて、文しようの ぜんたいに なにが
書かれているかを 考えながら 読む ことが 大切です。

二 1 上田さんが、せつめいしている じゅんじよで くしだんごを かくと、
どのように なるか そうぞうして みる ことが 大切です。

2 上田さんの せつめいに ならって、「はじめに」や 「さいごに」などの
ことばを つかって、じゅんじよを 考えながら せつめいする ことが
大切です。

取り組んでみよう！

■ つぎの 線部の カタカナを、漢字で ていねいに 書きましよう。

1 アメが ふる。

3 チカラを ぬく。

2 アオい くつ。

4 大きな オト。

こたえ

鼻 ヲ 4 8 (い)鼻 乙 鼻 ↓

■正答

- 一 1 イ
- 2 ウ↓エ↓ア↓イ

- 二 1 牛のほかにも、やぎ、らくだ、馬、トナカイ(など)

2 [4]

■考え方

- 一 1 谷口さんのレポートは、内よりのまとまりごとに整理され、ことがらごとに見出しを立てて書かれています。
- 2 レポートのそれぞれの部分に何を書くのか、それらがどのようにつながるのかを意しきして書くことが大切です。

- 二 1 第②だん落の「いろいろな動物」について説明しているだん落はどこかを考えながら読むことが大切です。
- 2 第④だん落の内よりの「くでしようか。」を手がかりに、「とい」になっていることが分かります。また、第⑤だん落が、「とい」の答えになっていることから第④だん落が「とい」のはたらきをしていることを確かめることができます。

取り組んでみよう!

■ 次の——線部のカタカナを、漢字で書いてねいに書きましょう。

- 1 日ヨウ日に 来る。
- 2 センを 引く。
- 3 ミチを 歩く。
- 4 ミセに 行く。

答え

日 ヲ 昼 日 遊 ち 通

一学期末問題(第二回) 国語 小四

【児童用】

■ 正答

- 一 1 小野さん…⑧
谷口さん…⑤

- 2 (例1) てきから身を守るためにイソギンチャクを付ける (ヤドカリ) (二十二字)
- (例2) いくつものイソギンチャクを貝がらに付けている (ヤドカリ) (二十二字)

二 1 持ち物

- 2 アとウ (ウとアでもよい、どちらも合っていたら正答)
- 3 (例) 学校に集合すること (九字)

■ 考え方

- 一 1 小野さんがまとめたい「ヤドカリとイソギンチャクはどのようにしていっしょになるのか」は、段落⑥に問いの文が書かれ、段落⑧にそれに対する答えが書かれています。谷口さんがまとめたい「なぜ、ヤドカリはイソギンチャクを貝がらに付けているのか」は、段落①に問いの文が書かれ、段落⑤にそれに対する答えが書かれています。
- 2 まとまりの一つ目(段落①～⑤)には、「なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらに付けているのでしょうか。」という問いと、問いに対する実験の結果や答えが書かれています。そのため、「イソギンチャク」「付ける」の二つの言葉を使って書くこと正答になります。

- 二 2 山本さんと木村さんは、持ち物についてかじよう書きで書いています。また、必要な内容ができるだけ短く書いてメモを取っています。かじよう書きとは、事がらを、短く、一つ一つ分けて書きならべる書き方のことです。かじよう書きを使うと、事がらの全体や順序がとらえやすくなります。
- 3 三人ともメモを取っていない内容は、「学校に集合すること」です。大事な言葉を短い言葉でメモしておく、後で、相手が伝えたかったことを正しくふりかえることができます。

取り組んでみよう！

■ 次の——線部のカタカナを、漢字でていねいに書きましよう。

- 1 ヨウフクを着る。 [] []
- 2 外でアソぶ。 [] []
- 3 つくえをトトノえる。 [] []
- 4 自動車にノる。 [] []

答え

(2) 傘 ヲ (3) 寝 8 (4) 寝 乙 服 来 ↓

一学期末問題（第二回）国語 小五

■正答

- 一 1 (例1) ふえ続けている (七字)
 (例2) 多くなっている (七字)
- 2 イ
- 3 「事実」 (例1) 日本にきた外国人旅行者では、中国がもっとも多い。(二十四字)
 (例2) 日本に近い国から来ている外国人旅行者が多い。(二十二字)
 ※その他、グラフから分かることが書いてある場合、正答とします。
 「意見」 (例1) 中国の旅行者にまた来てもらえようように努力したほうがよい。(二十八字)
 (例2) 日本に近い国以外の外国人の人たちにも来てもらいたい。(二十五字)
 ※その他、グラフの内容に関連して、自分の考えが書いてある場合、正答とします。

二

地名

1 青森 (あおもり)

Aomori

2 札幌 (さっぽろ)

Sapporo

三

- 1 データロガー (六字)
- 2 動物たちのくらしぶり (十字)
- 3 (例1) マッコウクジラは、千メートル以上の深さまでもぐっていたこと。
 (例2) マッコウクジラの泳ぐ速さは、時速五・八キロメートルだったこと。
 ※ペンギンやアザラシと同じ速さで泳いでいたことは、マッコウクジラに取り付けた装置からのデータだけではわからないことなので、不正解とします。
- 4 イア 楽に
 いちばんよい (ちょうどよい)

■考え方

- 一 事実と意見を区別して書くには、事実を具体的な数字や例をもとに書くことと、ともに、その事実と意見との関係を十分とらえて書くことが大切です。その際、文末表現に注意して書くようにしましょう。

取り組んでみよう！

■ 次の——線部のカタカナを、漢字で書いてねいに書きましょう。

- 1 説明をハブく。 []
- 2 草木のメが出る。 []
- 3 日光をアびる。 []
- 4 考える力をヤシナう。 []

答え

(し) 葉 ヲ (せい) 燃 え 糸 ち (く) 景 ↓

一学期末問題（第二回）国語 小六

■正答

一 1 イ

2 ア

3 (例1)

(一方、避難場所を決めたり、) 防災訓練に積極的に参加したりしている人は多くありません。(二十八字)

(例2)

(一方、避難場所を決めたり、) 防災訓練に積極的に参加したりしている人は少ない。(二十四字)

二 1 ア 農地にするため(七字)

イ 丸木船を作るため(八字)

2 (例1) 祖先を敬うため、モアイ像を製作すること。(二十字)

(例2) 祖先を敬うため、モアイ像の製作がさかんになったこと。(二十六字)

3 ウ

三

1 ① ウ

② ア

2

③ ② ①

イ ア ウ

■考え方

一 3 「避難場所を決めている」「防災訓練に積極的に参加」している人がどのくらいいるのか、グラフから読み取って書きましょう。「一方」は、それまでの話題に関連した別の話題に変えるときに使う言葉です。

二 1 イースタール島から森林が失われた原因について、読み取ったことを整理し、筆者がどのように論を進めているのかを確かめながら読みましょう。

2 文章の内容を的確におさえるために、文章に書かれている話題や理由となっている内容などに注意して読みましょう。

3 説明的な文章を読む際は、文章の構成や取り上げられている例、筆者の考えの關係に注意して、文章を読みましょう。

取り組んでみよう！

○ 次の文章の……線部と——線部とのつながりが合っていない文の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、……線部はそのままにして、意味が変わらないように、選んだ文の——線部を正しく書き直しましょう。

①ほぐは、家で国語の勉強を毎日がんばりました。その努力は実りました。②ほぐは、冬休み明けのテストで満点をとることができました。③冬休みは、とてもじゆう実したものになりました。でも、反省している人もあります。

④反省点は、お手伝いをあまのこませたことだ。これから、勉強だけではなく、お手伝いもがんばることを思います。

番号

書き直した文

答え

「。手伝いをしてあげよう。お手伝いをする」(四)

④ 音楽